

デパートで買い物をして家に帰ってから、その品物に気に入らないところが出てきて、返品または取り替えに出かけるというのは、日本でもいくらもあることだろう。エドモントンでも同じことだが、ただその度合いがいささか違うように思われる。

真空掃除機を買ってきて家で使ってみたところ、音が大きすぎるので、吸い込んだゴミもそのままデパートにもって行って返品し、代金を返してもらったという話を聞いた。子供の水着を買ってきて一度プールに行つて泳いだけど、子供がいやだと言いだしたので、お店に返してしまつたという母親の話も耳にした。また、これは返品ではないが、ある買物をした翌日から始まつたセールで、同じ品物が一〇ドル安くなつたので、そのデパートに出かけて行つて一〇ドルもらつてきたという話もある。

こうしたことは、この土地の人びとにとっては「朝めし前」のこと、のように思われる。

ところで、面白いのは、日本からきた人びとの反応である。

「こちらの店員さんの態度はすばらしい。末端の店員に到るまで、自分の扱う品物にははっきり責任を持つし、また店としても持たせてあるわけだ。いやな顔をしなからしくお持ち下さい。責任者に聞いてきますから……」なんてことは一切いわない。

とほめちぎる日本人にお目にかかったことがあるが、よほど気持のよい経験を

したに違いない。

反面、こういう人もいる。

「何のことはない。そうした返品から生じる損失は、初めから勘定に入れて、売り値の中におり込んである。しかも、工場で製品管理に金をかけるよりも、個々の消費者に製品検査をさせる方が安上りだ。要するに、資本主義の論理にしたがつているということだ。」
なる程そういうことかもしれない。

エドモントン便り

体験論

藤永 茂

また、こんな意見も聞く。

「とにかく外人というのは気が強いね。表面はニコニコ親切で思いやり一杯のように見えるけど、いざ自分の利害がはつきりかかわって来ると、何のためらいもなく強引に自己主張に出る。シンが強く、実にずうずうしい。一度着用した水着をぬけぬけと返品する心臓は、なみの日本人にはありませんよ。」

エドモントンにしばらく住んでからまた日本に帰つてゆく人びとは、実地の体験にもとづいてそれぞれのカナダ論、外人論あるいは日本論を心につくり上げて帰つてゆくに違いない。それが、人生体験の内的処理ということであろう。

しかし、限られた具体的体験から一般的な結論を引き出すという知的操作には、必ず一定の危険がともなう。外国で、学者や芸術家などとして名を挙げた人たちの「外国論」が大変もてはやされ、御当人たちも、ますます権威を持って語り続ける傾向が日本にはあるように見られる。一道の奥儀を究めた成功者たちの「アメリカでは……」「イギリスでは……」「フランスでは……」という断言的なお話には、それなりの深い真理が含まれているのは間違いない。傾聴に値しよう。しかし、同時に、真理はほとんど常に重層構造を持つていて、忘れではなるまい。「もう一つのアメリカ」「もう一つのカナダ」「もう一つの……」が必ずある。

ちかごろエドモントンの市議会を二つに割つた論争がある。議題は、市の中心部からさして遠くない町角にあるボイルストリート・パークとよばれる小公園の処理についてであった。そのパークは公園というよりも貧弱な小遊園地といった方が近い。なにがしかの芝生があり、数本の樹木の下にはうらぶれたベンチが置いてある。中央部には、子供たち用の滑り台やブランコや古いタイヤなどがあり、

遊び場になる。問題は、そこに集まつてくる浮浪者たちである。昼間から息のくさい酔いどれたち、貧しい身なりの老人たち、麻薬中毒ではないかと思われるインディアン若者たちなどが、このパークの常連なのである。彼等の間でいざこざがおきることはもちろんある。しかし、そこで遊ぶ子供たちに危害が加えられることはめつたにないという。

市会の議員の半数は、エドモントンの恥部をさらすパークは閉鎖し、つぶしてしまえ、と主張する。他の半数は、人間のかす、人生の敗残者たちにも、しばしの憩いの場所がエドモントンにいか所ぐらいはあつてもよいではないか、と言う。間違つてはいけない。この論争は、非情無慈悲な議員たちと、おセンチ人情派の議員たちの争いではない。エドモントンにはどんな人間たちが住んでいるか、住む権利があるかということについての基本的な認識の相違が、論争の根本にあるのである。

エドモントンにしばらく在住して日本へ帰る人々には、ボイルストリート・パークを知らないままの人も多いことであろう。それはそれでよい。何も見物に出かけることもない。しかし、お互いに自分個人の体験なり思考判断なりには、偏りもあれば限界もあることをいつも心得ていたいものである。これは何も外国での経験に限ったことではあるまい。一生の体験についても同じことが言えるであろう。

(アルバータ大学教授)